

〔文德實錄四〕仁壽二年十二月辛巳天台沙門素然。卒沙門者嵯峨太上天皇之子也。賜姓源朝臣名明性甚明悟天皇好文書欲教諸子皆有才學。知明奇器勅勸對策。○中從初承勅勉勵彌切諸子百家略以閱覽晏駕之後哀慕感恨云誰爲爲之不遂其業歸心佛道離遠俗塵遂爲沙門終于山中時人高其節操皆以感慕。

〔伊勢物語下〕むかしみなせにかよひたまひしこれたかのみこれいのかりしにおはしますとも
にうまのかみなる翁つかうまつれり日ごろへて宮にかへり給ふけり御おくりしてとくいな
んと思ふにおほみき給ひろく給はんとてつかはさざりけり此うまの頭心もとながりて
枕とて草引むすぶ事もせじ秋の夜とだに頼まれなくにと讀ける時は彌生のつごもり成け
りみこおほとのごもらであかし給ふてけりかくまうでつかうまつりけるを思ひのほ
かに御くしおろし給ふてけりむ月におがみ奉らんとて小野にまふでたるにひえの山のふも
となれば雪いとたかしまゐてみむろにまうで、おがみ奉るにつれといと物かなしくて
おはしましければや久しくさぶらひていにしへの事など思ひ出て聞へけりさてもさぶら
ひてしがなとおもへどおほやけ事ども有ければえさぶらはで夕ぐれにかへるとて
わすれては夢かと思ふおもひきや雪ふみかけて君を見んとはとてなんなくききにけ
る。

〔今昔物語 二十四〕源博雅朝臣行會坂旨許語第廿三

今昔源博雅朝臣ト云フ人有ケリ延喜ノ御子ノ兵部卿ノ親玉ト申人ノ子也万ノ事止事ナカリ
ケル中ニモ管絃ノ道ニナム極タリケル琵琶ヲモ微妙ニ彈ケリ笛ヲモ艶ズ吹ケリ此人村上ノ
御時ニ、〇ノ殿上人ニ有ケル其時ニ會坂ノ關ニ一人ノ旨庵ヲ造テ住ケリ名ヲバ蟬丸トゾ云
ケル此レハ敦實ト申ケル式部卿ノ宮ノ雜色ニテナン有ケル其ノ宮ハ宇多法皇ノ御子ニテ管